

公益信託世田谷まちづくりファンド

第20回助成事業 審査講評

まちづくり活動部門

【1回目 応募グループ】

<1-1 世田谷・L i e n>

- ・活動の目標はよく理解できました。ただ二つの点で活動内容に疑問を持ちました。1点目は、「子育て・介護複合課題」に対して、高齢者の介護予防の場を作って働く女性の負担を軽くするという回路は、ちょっと遠回りに感じるということです。より直接的に働きかける方法はないのでしょうか。2点目は、まず事務所を開き NPO 化を図る活動計画です。一定の活動実績を作られてからの方が妥当ではないかと思いました。
- ・活動に対する想いはよく伝わってきました。活動も拠点もという必要性は理解できますが、助成額の総額に上限があることから、まずは活動の方に重点を置いて審査をさせていただきました。不足分の拠点の備品については、たとえば多くの人々に呼びかけて提供してもらうのでしょうか。そうしたことも参加のきっかけになると思います。
- ・活動の趣旨や高齢者にかかわっていただき、吊るし飾りづくりを進めるという切り口は大変いいと思いましたが、その取り組みとして事務所の立ち上げが本ファンドの支援として最適なものであるかという点には懸念がありました。また、現時点での受益者数も限定的である点も気になりました。今後、拠点を活かしてどれだけの方々にご参加いただける場に成長させることができるかに期待しています。
- ・育児と介護の両立を支援することと、復興支援？の吊し飾りづくりが、どのようにつながるのか？ 申請額の大半は、事務所の設備・備品費であることから、大幅に減額しました。コミュニティづくりへの展開を期待しています。
- ・「子ども・働く女性・高齢者が笑顔で暮らせる家庭・コミュニティづくり」
みなさんが取り組まれている活動は、これからの日本において無視できない課題解決のだと思います。活動の内容が少々高齢者に偏っているようにも感じられます。段階を追ってかとは思いますが、3者が笑顔になる場づくりを目指して頑張ってください。
また、仲間を増やす策も取られてはいかがでしょうか？

- ・地域の拠点は、とても必要なことだと思っています。区内では地域共生のいえなどいくつかありますが、まだまだ足りないと思いますので、拠点づくりを応援したいと思います。しっかりとしたスキルのあるメンバーが揃っているので、活動を実施することは難しくないと思いますが、どのように拠点を維持し続けるか、この1年で検討して形をつくっていただければと思っています。
- ・「子育てと介護の複合課題」、少し前まで「子育てが済んだら介護」だったのですが、今は2つを両立しながら働くという大変な状況があるのですね。必要な取り組みだと思います。ネットワークもダイナミックなので、あとは地域の仲間を増やし、基盤づくり、大変だと思いますが頑張ってください。
- ・介護の問題はこれからの地域全体で取り組む大きな課題だと思います。活動と拠点は両方とも重要であることは十分に理解できますが、今回は活動に対する助成を中心に考えたいと思いました。ファンド助成を契機として活動の活性化につながることを期待しています。

< 1-2 アルファキッズクラブ >

- ・「顔の見える子育て支援」を実践されていることが、わかりました。継続していただきたい活動だと思います。気になったのは、まちづくりへとどのように連なるのか、という点でした。リズム遊びが親子を良くして、それが町を良くするというのもわかるのですが、より直接的に町に働きかける方法を考えていただきたいと思いました。
- ・クチコミであれだけの子育て層のみなさんが集まってくるのはとてもすごいことだと思います。それだけみなさんの活動が必要とされているのでしょう。ただ、助成金もいつまでも続くわけではありませんので、どうやったら活動の継続や場の維持につながるような資源の確保（資金、人材など）をできるか、ぜひとも検討をお願いします。
- ・これまでの取り組みについて興味深く伺わせていただきました。子育て支援の場づくりは、今の時代状況の中で重要性がますます増してくる活動だと思っています。そうした場を、まさに「地域の象徴」として幅広い参加と支持を得るものにすることがこれからのチャレンジだと思います。頑張ってください。
- ・子育てに躰つまづいた親子を地域で支援する事と、親子リズム遊びと食育が、具体的な地域づくりに繋がって行く事を期待しています。申請額の大半が講師謝金なので、受益者負担など、持続可能な活動にさせていただくために減額しました。
- ・少子化対策に向けた素晴らしい活動だと思います。ほとんどが親子（主に子ども）向けの活動

内容となっています。ゆくゆくは子どもを取り巻く大人（主に両親）を対象とした活動も出来るようになるのと、より第2子、第3子への後押しになるのではないのでしょうか。そのようなことも視野にいれつつ、まずは一年間、活動してみてください。応援しています。

- ・多様な形で子育て支援は必要だと思いますし、応援したいと思います。ただし、ファンドの趣旨からして、活動予定表にある活動だけを実施するのでは物足りない気がします。プレーパーク等の他の子育て系の団体とコラボしてみるなど、まちづくりに展開するきっかけづくりの1年にしてはどうでしょうか。
- ・設立から3年間、子育てに寄り添いながら必要に応じて活動を広げてきた様子が応募用紙からわかりましたが、やはり「まちづくり」ならば、メンバーの親子から地域に広げていく努力がもっと必要だと思います。またこれまでの積み重ねを地域に生かす方法を考えてください。応援しています。
- ・活発な活動と参加者の多さ、参加者による自主的な運営など充実した活動のようすがわかりました。これからも気軽に集まれる地域コミュニティの場としての展開を期待しています。

< 1-3 よみきかせボランティア藤の会 >

- ・高齢者の方々は、皆様の読み聞かせをととても楽しみにしているのではないのでしょうか。その雰囲気伝わってきました。私が良いなと思ったのは、読み聞かせの講習会を開いて、この活動に関わる新人を発掘しようと言う企画です。新人の獲得もさることながら、この過程で多くの人が、同じ町にある高齢者施設のことを考えるようになるのではないのでしょうか。
- ・読み聞かせの活動は高齢者層だけでなく、たとえば子育て層にもニーズはあろうかと思います。また、朗読ということなら、小学生向けの朗読公演、朗読教室みたいなことも考えられます。老人ホームなどに限らず、子育てサロンや児童館などにも積極的に出張し、まずはメンバーを増やすことに力を注いでみてはいかがでしょうか。
- ・高齢者施設への読み聞かせを行うという活動の趣旨は大切だと思いますが、やはり現時点での活動にかかわる方の数が少ないことが気になりました。今回の助成を通じて、せつかくの取り組みにより多くの区民がかかわる仕組みを考えていただけることを期待しています。
- ・高齢者施設において、絵本の読み聞かせを行う意義は分かるのですが、地域で支える仕組みを作るという意識が、読みとれません。初心者講習会などを開催して次の世代を育て、地域の人を巻き込んで、活動の輪が広がることを期待しています。
- ・利用者が男性か女性かによって絵本の種類を変えたり、参加型にするなどきめ細やかな活動が

とても素晴らしいと思いました。状況に合わせて臨機応変な対応は、ご苦勞もあるかと思いますが、ぜひ継続して、そして、またアイデアが浮かんだらいろいろと試してみたいかがでしょうか。

あと、スタッフ増員（特に若手）も意識してみたいかがでしょうか。

- ・70代の方々が社会貢献しようとする姿勢は、それだけで素晴らしいと思います。また、読み聞かせは地域で需要があることなので、無理のない範囲で活動場所を増やすなどのステップアップがあるといいと思いました。メンバーの増加、期待しています。
- ・読み聞かせを高齢者の皆さんに、というのがとても新鮮でした。懐かしい昔話などを聞いたら、喜ばれることでしょう。新しい試みなので研究も必要だと思います。とても期待しています。
- ・絆推進事業も世田谷まちづくりファンドでも地域活動同士の連携は重要だと思います。ファンド助成での交流会などを活用していただき、さらに展開を広げていただけることを期待しています。

< 1-4 世田谷区民のライフスタイルを考える会 >

- ・現在実践されている活動は、時宜を得たもので、また重要なものだと思います。またこれまでの勉強会中心から実際の活動へのシフトを考えていることも理解しました。ぜひより多くの区民を巻き込む方途を探られ、この場所にしかない世田谷式ライフスタイルの姿を発見、提示していただきたいです。
- ・メンバーに学識経験者が多く、とても中身の濃い議論をされているにもかかわらず、認知がまだ一部の人々にとどまっているのが大変惜しいと感じました。勉強会を通じて知識の普及を図るのも大切ですが、多くの区民の参加を得るためにも、もっと外に出て、新しいライフスタイルを実践する具体的なモデル事業を実施してほしいと思います。
- ・「世田谷区式生活」というネーミングと切り口は面白いと思いますが、これまでのセミナー等での議論が、どのように世田谷でモデル化していくことになったのか、そして今後具体的に地域にどのように広がっていく計画なのかは、いまひとつ明確でないという印象もありました。この1年の活動の成果に期待しています。
- ・クリーンエネルギーによる持続可能なまちづくりは、震災後の日本における重要な課題ですが、講演会からの拡がりが見えませんでした。今年は、助成金を活かしていただいて、さらに地域の活動と繋がり、大きなうねりが生まれることを期待しています。
- ・震災以後、エネルギーに着目しすぐに行動を起こすスピード感が素晴らしいと思いました。住

民とともに生活を考える仕組みも汎用性があるように感じます。ただ、みなさんがテーマとして掲げている「クリーンエネルギー」の捉え方が、今一つ分かりにくいと感じました。まちの緑化やガーデニングもその範疇に入るとのことでしたが、「クリーンエネルギー」という言葉では説明しきれないと思うので、今後、どう浸透させていくか考えてみてください。

- ・クリーンエネルギーの勉強会や実践は、多様にあった方がいいと思っていますので、応援したいと思います。まだ、世田谷の地域リソースの把握や活用が少ないと思いますので、この1年での展開に期待しています。例えば、トランジション世田谷茶沢会などとコラボするなどはどうでしょうか。
- ・震災以降、すべての人の課題となったエネルギー問題。江戸のライフスタイルなどと関連させて楽しく学ぶ学校スタイルの活動には魅力を感じました。学校を続けながら着実に実践に結びつくとう本当に良いと思います。期待しています。
- ・質の高い議論と活動に敬意を表します。なぜ世田谷なのか？という質問をいたしました。烏山地域では様々な住民主体の活動が展開しています。地域住民との連携をさらに進めていただくことを期待しています。

<1-5 アート・イン・ファーム世田谷実行委員会>

- ・農地の多様な価値をアートを通して顕現させるというアイデアと、実現している力量に感銘を受けました。「この場所でしか成立しない参加型のコミュニティ・アート」にできるだけ多くの多様な地域の人々を巻き込んでください。来年の成果発表では、美しいアート風景に加えて、コミュニティへのフィードバックがいかに実体化したかを教えて欲しいと思います。
- ・プレゼンを見て、ライトアップされた農園はさぞかし美しく、私もぜひ見てみたいと思いました。しかしそれはあくまで一時のもので、多くの人々に農園に対する関心を持ってもらうためにはやはり継続的な活動が必要でしょう。今回のライトアップに至るプロセスをきっかけに、ぜひとも世田谷に根付くような活動をしてほしいと思います。
- ・アートを通じた都市農地の保全・活用という発想と既に立川での実績があるということで、ユニークな切り口での活動に期待しています。他方で、開催期間が短期間なので、その取り組みが今後の地域づくりや農地の魅力向上にどのように継続的につながっていくのが課題であるとも感じました。
- ・省エネの時代にライトアップ？ 1カ所のイベントが、地域づくりにどのように貢献できるのか？ その展望が見えませんでした。今回のイベントをきっかけとして、世田谷でのネットワークが広がることを期待しています。

- ・世田谷区には多摩美大もあり、生活とアートの掛け算がしやすい地域だと思います。（既に多摩美の学生による景観づくりも行われています。）ぶどう畑が夜ライトアップされた景色はきっと美しく、また住民にも驚きを提供してくれるものと確信しています。反面、一過性で終わらないか、住民がこの活動にどこまで参加できるかがポイントになると思います。例えば、新潟で3年に一度開催される越後妻有トリエンナーレでは開催を重ねるうちに、地元住民が作品を作るようになったそうです。（特別参加として、展示されていました）そこまでいくには時間がかかるとは思いますが、地域住民の手による場になると、継続的な活動になるように思いました。
- ・日本の都市部の農地はなぜか汚く感じます。特に区民農園のように多くの人を使うと、掲示や仕切りなどが目にうるさくなりがちです。都市部の農地の価値は多重的にあると思いますが、現状では「美しさ」という価値は低いと感じています。ということで、この取り組みに期待しるところ大ですが、非日常から日常の美にどうつなげていくかについても考えていただければ幸いです。
- ・応募用紙からはイメージしにくい活動だったのですが、お話をお聞きして「都市の農業」が見直される可能性を感じました。楽しみです。なお、応募用紙には一般的な市民には難しい言葉があったかと思います。次回はわかりやすい説明をお願いいたします。
- ・アートと農地をつなげる発想はとても良いと思います。質の高いアートがポイントであるというご説明は良く理解できました。経費の問題はあると思いますが、なんとか工夫をして質の高さを追求していただくことを（無責任な発言ではなはだ申し訳ないですが）期待しています。

< 1-6 トランジション世田谷 茶沢会 >

- ・昨年のソーラーパネル手作り WS の実績の上に、今年度は多角的な展開を狙うということだと理解しました。発表会でも答えていただきましたが、マルシェにもコミュニティ・ガーデンにもソーラーパネルを絡ませていくことが、アイデンティティになってゆくのではないかと思います。
- ・はじめの一步部門から発展的にさまざまな活動をされており、多くの人々の興味や参加を促している点は大変評価できます。まだまだ手探りかと思いますが、今年度の活動でさらに実績を積まれることを期待しています。みなさんの活動の継続がひいては人々のライフスタイルを変えることにつながりますので、今からその検討をぜひお願いします。
- ・はじめの一步部門での活動経験を活かして、もう一步進めるということでは、今回の助成を通じてしっかりとした事業や活動の計画をつくり、関わる人の輪を広げていただけることを期待

しています。

- ・ワークショップのプロセス自体が、地域への拡がりを生み出していることが実感できました。強制的な節電ではなく、一人ひとりがエネルギーを自給できる、持続可能なまち・暮らし・社会経済の仕組みづくりへ、活動の輪が拡がることを期待しています。
- ・自分たちの創意工夫で持続可能な社会に移行するという趣旨のものと活動ということで、移行の前と後ろ、つまり、どこ（どういった社会）からどこ（どういった社会）へ移行していくのかを、具体的に提示していただけると、トランジション世田谷茶沢会の活動の意味が際立つと思います。
- ・社会をトランジションしていくにはいろいろな要素があり、発電とマルシェとコミュニティガーデンという3つのテーマで活動するというのは理解できますが、トランジションしていくパワーが散漫になるのではないかと思います。どこかにエッジを効かせた取り組みとなることを期待しています。
- ・快進撃を続けるトランジションの皆さん、ネットワークも豊富で、5月のエネルギーシフトのイベントなど、大きな動きにつながりそうでとても期待しています。トランジションタウンの運動について、国内外の動きを知りたいように思います。
- ・はじめの一步からの継続した取り組みから、地域に活動をひろげている様子がよくわかりました。理念を定着していく活動は地道で大変だと思いますが、区民の行動として広がっていくことを期待しています。

<1-7 下北沢発：シンデレラ・プロジェクト>

- ・ピンク色の優しいデザインのポスターや募金箱が下北沢のあちこちに置かれ、このまちの優しさを表す！すると人がたくさんやって来て、下北沢にも被災地にも関わって皆が幸せになる！そんなイメージが素直に浮かびました。すでに下北沢の1割近くの商店が参加されているという説明にも力強さを感じます。来年の報告では多くのピンク色の募金箱のある下北沢の優しい風景を見せていただきたいと思います。
- ・行政や市民活動からではなく、企業発の取り組みを拾っている点、商店街をうまく巻き込んでいる点は大変評価できます。物資を提供する活動について、靴だけにとどまらず、いずれ多様な物資や活動に広がっていくことを期待しています。うまく広がるようでしたら、災害対策・復興まちづくり部門での申請も考えてみてはいかがでしょうか。
- ・下北沢発で多くの人を巻き込んだ被災地支援活動を進めてこられたことに敬意を表します。

他方で、支援集めの広報活動自体をファンドとして支援することは、他の具体的にまちづくり活動を進める事業との比較における優先順位では必ずしも高くないと判断しました。

- ・震災直後は意義のある活動であったと思いますが、今でも「靴」を送ることの必要性が感じられませんでした。しかも、200足の送り先を、どのように選定するのか？ 息の長い公平な支援の仕組みが生まれることを期待しています。
- ・支援物資と現地のニーズにギャップがあり、物資が余ってしまうという状況が多く発生している中、関わるみなさんが嬉しい気持ちになれる素敵な企画だと思います。下北沢の集客向上につながる工夫がもう少し具体的になっていると、よりつながりが明確になるのではないのでしょうか。
- ・下北沢の商店街組織の状況をよく知りませんが、たぶん組織に加入している割合が低いのではないかと推測します。その中で、個店が協力して何かやっていくという新しい商店連携のあり方を示しているプロジェクトだと思います。ぜひ、参加商店の割合を増やして行ってください。一方、被災地の靴需要についてもよく知りませんが、ある程度充足していると思われます。どこまで靴にこだわるかは、状況を見ながら検討していった方がいいのではないかと思います。
- ・国際ボランティア学生協会と連携して、下北沢のまちを挙げて復興支援に取り組もうという考えには賛同します。まちづくりにつなげるために、より多くの人々が主体的に関われるよう、工夫してください。
- ・被災地支援のひとつのあり方として、地域からの発信していく姿勢に共感を覚えました。目的と活動内容が具体的だったと思います。現地の反応も含めて今後の成果を教えてください。

< 1-8 猫家 >

- ・「地元で寄席を作りたい。」最初はまちづくりと関係あるのかな、と思いましたが、このプロジェクトは人—地域—文化を三大演目としている、との説明には大きくなずきました。もともと落語は、人—地域—文化の生み出した芸能ですものね。（ぜんぜん詳しくないのですが、そんなイメージです。）このプロジェクトには、まちづくりに大きな展開をもたらす可能性を感じました。
- ・多くの人々に関心を持ってもらいやすい落語を通じて地域の人々の交流を促そうという意図は十分理解できます。ただ、ファンドの趣旨から、落語会を開催することが具体的にどのように地域の活性化につながっていくのかがやや不明確に感じました。少しでも自分のまちに関心を持ってもらえるようなしなかけを検討・実践されることを期待します。

- ・落語を地域に体験する機会を提供するという趣旨は賛同するのですが、その活動を通じて、地域につながりが生まれたり、学びや気づきがあるということがプログラムの中で能動的にあまり組み込まれていないという印象も持ちました。
- ・季節の行事を取り入れた落語の講演活動や、1階のカフェでの地元の野菜や食材の提供を通して、地域の人たちとのコミュニケーションを深め、地域との繋がりが地域づくりに繋がっていくことを期待しています。
- ・プレゼンの際にお父さまの介護を機に地元で落語を開催し、その時に地域で公演することの意味を知ったとおっしゃっていたのが印象に残っています。厳しい言い方をすれば、落語会はどこでやっても同じになり兼ねませんが、その思いが世田谷という地域でやることの意味だと感じました。地元の人が多少の問題を抱えていても気軽に楽しめる場、そして、その場が井戸端として愚痴のはけ口や相談の窓口となる場にもなるように、ぜひとも「仕掛け」を工夫していただきたくお願いします。
- ・映画や落語、音楽会等を身近な場所で開催したいという市民団体に助成審査の場でお会いすることが多いです。草の根文化活動はとても重要なことなどと思いますが、まちづくりファンドとしては、さらにそれらがコミュニティづくりやその活性化につながることを求めています。いろいろ企画されているようなので、その成果を期待しています。
- ・浴衣アロハ、すてきでした。生の落語は最高に面白いですし、落語をただ聞くだけでなく、商店街と結んで文化を楽しもうという取り組み、とても楽しみです。どう展開するか、成果に期待しています。
- ・地域に笑いを届ける落語をテーマにした活動で、個人的に落語は好きなので応援したいと思いますが、やはりまちづくりファンドとしては落語会を行うだけではなくコミュニケーションを広げる仕掛けに積極的に取り組んでいただけると良いと思いました。活動そのものは応援しています。

< 1-9 フレンドリーグループ >

- ・花があると生活が豊かになりますよね。食と花とのコラボレーションも理解できました。私は特に、「育てた花を子どもたちや地域の高齢者の方に届けてあげたい。」というアイデアの実現をお願いしたいと思います。地域の公園で手塩にかけられて咲き誇る花々が、地域の多くの家々に届けられ、家々に幸せをもたらすとしたら、これはすばらしいことだと思うのです。実際に育てられる花の数やどの家に届けるのか等、大変なことがあると思いますが、ぜひトライしていただきたいと思います。

- ・花づくり（緑づくり）の活動は人々が参加しやすく、まちづくりにとって重要でありながら、継続していくには資金的にはやや苦しいところがあります。その中で、花づくりをきっかけとして多様な活動に踏み出されようとするみなさんの活動は大変好感がもてます。ぜひこうした花づくり活動の継続モデルになってほしいと期待しています。
- ・1年間、苦勞をして取り組んだ花壇づくりの経験を活かして、今回の助成をぜひ次のステージの活動に活かしてください。会員が大幅に増えそうだというのも大変うれしいことです。仲間の輪を地域に広げながらの活動を期待しています。
- ・21年間放置された広場が、花であふれる憩いの場になり、花を介して地域の人々のコミュニケーションが生まれる中で、今年はおくるみ会の協力を得て、花と健康増進をテーマに、持続可能な活動になることを期待しています。
- ・プレゼンの際には、フレンドリーパークとくるみ会が手を組むことで生まれる相乗効果が、具体的に見えてきませんでした。手を組むことのメリットが、機材や備品の持ち出し改善のためのみならず、健康増進のための活動そのものでコラボレーションが生まれることを期待します。
- ・まちの中に花がある地域というのは素晴らしいと思います。花壇の手入れをぜひ続けていってほしいと思います。一方で、食育との関係があまり理解できませんでした。メンバーの輪を広げるきっかけとして考えているのか、グループの2大テーマとしていきたいのか。1年の活動の終りに、再度聞かせていただければと思います。
- ・ボランティアな園芸活動に加えて、自分のためにも！という二兎を追う積極的な姿勢が印象的でした。食育セミナーと合わせた「花と健康生活」、活性化しメンバーが増えて働き手が増えるなど、これまでの活動の課題を解決できるとよいと思います。
- ・街角のスペースを活用した花の育成と、それを活用した食事会への展開に意気込みを感じました。花と食育のつながりをもう少しわかりやすく説明できると活動の説得力が増すと思いました。

< 1-10 あかねこうぼう >

- ・素晴らしいポスターでした。「地域の笑顔を耕す、育てる、実る」というステップと、それを実現されていることが良く理解できました。地域の他のグループとの協働も進んでいるとのこと、本当にたくさんの笑顔が実りそうですね。確実に歩まれていることに敬意を表します。
- ・地域共生のいえは継続して地域の中にあることが重要ですので、ぜひ助成金があるうちに自立に向けた検討を進めてください。ものづくりやギャラリーといったみなさんの特徴を生かして、

たとえばお茶を飲みながら気軽に手づくりを楽しめる「ものづくりカフェ」とするなど、多くの人々が来訪しやすい工夫をぜひ考えてほしいと思います。

- ・大変多様な取り組みが生まれている場であり、地域にとってかけがえのない場になりつつあるのだという印象を持ちました。「笑顔が実るまち」を生み出すチャレンジ、ぜひこれからもがんばってください。
- ・地域共生のいえで営まれる手仕事を楽しむ会や、子どものワークショップが広がっている様子が良く分かりました。運営する人や活動資金の手当を行い、地域にたくさんの「居場所」が生まれる活動につながることを期待しています。
- ・教える人と教わる人のマッチングを具現化しているのがとても素晴らしいと思いました。ゆくゆくは、この活動のPRも重要なアクションになってくると思います。そのことも視野に入るとさらに拡がりが出てくると思いました。活動から生まれる笑顔と文化を期待しています。
- ・手しごと・ハンドメイドというのは現在では贅沢となり、そして人々を吸引する文化となっているんでしょうね。旅先で手づくり工房やギャラリーがあると必ず訪ねますが、そこに地域のコミュニティやネットワークの空気を感じることができるからです。あかねこうぼうの発表を見てもその空気を感じますが、さらにコミュニティやネットワークを充実させていただければと思っています。
- ・丁寧な手仕事とギャラリー、工房という名にふさわしい取り組みで憧れます。地域の人々や子どもたちが手仕事をしながら、ゆっくり丁寧に人生を楽しむ文化を育てていかれることと思います。これからの活動に大変期待しています。
- ・地域共生のいえとしての活動を継続されており、充実した活動の様子がわかりました。ものづくりの地域の拠点としてさらに活動を広げようということで、とても大変だと思いますが、期待しています。メンバーがひろがると良いですね。

<1-11 子どもでつながるハートくらぶ>

- ・昨年の活動実績、今年の活動提案共に、とても必要なものだと思います。まちのみんなで子どもを育てる共育は、確かに昔はそうだったですね。この「みんな」をまちのネットワークの提案と発展を通して、広げていただけるものと思います。この意味では、子どもが「みんな」を育てるのかも知れませんが。
- ・活動内容の幅やメンバーが増えるなど、徐々に活動が広がっているようで大変頼もしく思います。勉強会や講演会にとどまらず、何か地域の課題解決につながる具体的かつ実践的な取り組

みについてもぜひ検討してほしいと期待しています。身内限りにならないよう、他のグループとの連携や周囲の人々の巻き込みをぜひ考えてみてください。

- ・発達障害や思春期などさまざまな切り口で子育てを考える場を作る取り組み、そして、やっておられるみなさんの生き活きた様子が印象的でした。仲間が広がる活動となるためには、中心でかかわる人たち自身が、生き活きと取り組むことがまず大切であるということを再確認させていただきました。
- ・障害も個性の一つとして、多様な存在が受け入れられるまちづくりを目指して、同世代・異世代がつながる活動が、広がっている様子が良く分かりました。さらに地域団体と繋がるために、ファンドの輪を活用してください。満額です。
- ・最近、障害を持っている方が以前に比べて社会へ出てきているように感じています。環境が整備されつつあるのかもしれませんが、まだまだ発展途上だとも思います。みなさんの活動が生活の質向上の支えとなること、そして周囲の理解を得られることにつながれば良いなと感じました。
- ・昨年度、講演会や交流サロンを行なっていて、20～30人の方が参加されている実績は素晴らしいと思います。皆さんとしてはこれらの参加者とどのような関係をつくっていかようとしているのかが、気になるところです。メーリングリストとか、SNSのコミュニティとか、何かしら継続的なつながりが持っているといいですね。
- ・はじめの一步からメンバーも増え、交流したり、ものづくりワークショップを行いながら、学びあい、前進していかようという姿勢を感じます。多くの人の共感を得られる活動にぜひとも育っていただきたいと感じます。
- ・発達障害のことはなかなか理解が広がらず、大変な取り組みだと思います。講演会、サロン、ワークショップなどから、さらに協力者を広げてアイデアを展開できると良いですね。

< 1-12 どんどんガガガ隊！ >

- ・確かに、こどもよりも大人にガガガが必要ですよね。まちにもガガガが必要ですし、音楽とのコラボ・ガガガも楽しそうです。子ども達の絵＝作品をどのように活用するのか、大人やまちへのガガガの進出に関係するのか、今年もガガガ・ムーブメントの展開から目が離せません。
- ・昨年度は地域に入って行って活動の場を増やせたことは大変評価できます。子どもたちと大きな絵を描くのはとても楽しいことですが、今後はそれに加えて、たとえば、理想の街といったようなテーマを設けるとか、まち歩きをしてから絵を描いてもらうとか、自分の住んでいるま

ちを考えるきっかけとするなどの工夫をぜひ考えてみてください。

- ・着眼点が面白い取り組みで、他の活動グループともいろんな連携が生まれそうな活動だと思います。もう少し活動成果や自己評価、今後の計画などを詳しく表現してもらえるとよりわかりやすかったように思います。せっかくの活動ですので、いろんなプレイヤーと連携して複合的な展開、目指してください。
- ・子どもの輝く笑顔は、町中を元気にしてくれますが、巨大画の制作が、どのようなまちづくりにつながるのか？ 活動報告からは見えませんでした。コミュニケーションからコミュニティづくりへ、そのプロセスと成果を期待しています。
- ・やること自体はとてもシンプルなのに、参加者が深い気付きを得ることができる可能性のある活動だと感じています。歳時と合わせてみたり、作品が区内のどこかに展示できると良いですね。恒常的に無理だとしたら、例えば世田谷区関連の建設現場の仮囲いにやらせてもらうとか。（そもそも可能かどうか分かりませんが）
- ・ガガガ隊、ネーミングで元気が出ます。アートイベントは、アートディレクションが肝だと思っていますが、昨年写真を見る限り、流石のディレクションだと感じました。絵や身体表現などのプロと子どもたちが日常的に共同作業できる仕組みがあるといいのになあと感じました（ガガガ隊への直接的な感想ではなくて恐縮ですが）。
- ・巨大画制作がまちを変え、人を変えていくのかな、とわくわくします。どんどんガガガ、ママガガガ、パパガガガは早口言葉としてもいけてますね。多分野の活動とつながって、よりダイナミックに、自由に拡がってほしいと願っています。
- ・子どもたちの絵を描きたい気持ち、描く力を引き出すとても良い活動だと思います。まちに舞台を広げることで多くの人目に触れてほしいです。大人にとっても貴重な体験の場だと思いますが、大人はこういう場ではとても臆病ですね（自分も含めて）。

< 1-13 世田谷環境学習会 >

- ・実力のあるみなさんですから活動には長年の実績があることと思いますが、前年度の会計や事業報告が出ていなかったのは残念でした。助成金もいつまでも続くわけではありませんので、どうやったら活動の継続や場の維持につながるような資源の確保（資金、人材など）をできるのか、ぜひとも検討をお願いしたいと思います。
- ・これまでも多様な取り組みを進めておられる世田谷環境学習会にとって、今回の助成を通じて、学びを深めたり、ツールを作成したりという取り組みが、具体的にどのような成果を生み出す

のかが、若干不明瞭であるという印象でした。次のステージに一段階活動が成長するきっかけとなるような取り組みにさせていただけることを期待しています。

- ・環境学習の重要性、これまでの実績、多様な活動計画は分かるのですが、会の活動全てへの助成申請では、今年の実績が見えませんでした。組織の若返りと、持続可能な事業活動、そして地域づくりへの具体的な成果を期待しています。
- ・実績を積みながら継続した活動が素晴らしいと思います。これだけの実績をお持ちなので、参加費をちゃんと集めても良いのではないのでしょうか。活動範囲が多岐にわたり、メンバーの人数も多くいらっしゃるの、組織としてのマネジメントが重要になってくると思いました。
- ・メンバーが 66 名と多く、活動実績もあり力量のある団体だと思いました。なので、通常の活動は会費や寄付、参加費などでまかなっていかれた方がいいと思います。その上で、助成金はステップアップするために使うというメリハリがあるといいと思います。そのような趣旨で申請書を書かれていると思いますが、成果の発表会では、さらに明確に話していただくことを期待しています。
- ・ポスターセッションでお話をお聞きするまで、素晴らしい取り組みがこれまで継続してきたことがわかりませんでした。活動メンバーも多く、無くてはならない活動をしていらっしゃると思いますので、応募用紙でももっとその辺を伝えてください。